コラム　教えて！エリ先生

STAGE16
（2歳10か月
～2歳12か月）

この時期の発達過程

３歳近くなると会話もだいぶ成り立つようになってきます。まだ間違える事は多いですが「今日」「明日」「昨日」など、時間の概念が分かるようになってきて記憶力もついてくるので、前にあった出来事などを覚えていてお話してくれたりします。「あれなあに？」「なんで？」「どうして？」など質問が多いのもこの時期。何度も質問をされると「さっきも言ったでしょう！」などと言いたくなってしまうところですが、子どもは質問をすることでものの名前を覚えながら言葉の知識を広げたり、好奇心を満足させています。この時期だけだと思って付き合ってあげましょう。子どもからの「あれなあに？」の質問に、ただ「もみじ」と答えるのではなく、「もみじの葉っぱだよ。真っ赤だね。きれいだね」など様々な形容詞など、豊富な言葉を付け加えて返してあげると、ますます言葉の世界が広がっていきます。大人は意識してたくさんの豊富な言葉を語りかけてあげましょう。
またこの時期のお子さんは「あのね」「えっとね」など、口ごもってしまうことも多いので、大人はついイライラして「つまり〇〇〇っていう事？」と先回りをしてまとめてしまったり代弁をしたくなってしまいますが、子どもは話しながら自分で適切な言葉を探したり、考えをまとめようとしているのかもしれません。出来るだけお子さんが話している時は途中で口をはさまず、お子さんからの発語を促すような質問にとどめたり、相槌を打ちながら最後まで黙って聞いてあげましょう。親切でよく気が付くお母さんほど、お子さんのしぐさや表情でお子さんの要求を感じ取り「はいはい！お茶のおかわりが欲しいのね！」などと先回りをしてしまいがちなのですが、そこはぐっと堪えて「お茶のおかわりください」と言葉が出てくるまで待ったり、お子さんが仮に「お茶」とだけ言ってきたとしても「お茶がどうしたの？」と聞いて、「おかわりください」の発語を促すような関りもしていきたいところです。

この時期のお悩み

自己主張が強い時期。お友達と関わったり一緒に遊ぶ機会も増えてくると、時には物の取り合いや場所の取り合いなど、お友達とぶつかり合ったりトラブルになってしまうこともあるかもしれません。そんな時は、親としてはどんな対応をしたら良いのでしょうか？もしわが子がお友達を叩いてしまう、噛みつこうとするなどの行為が見られそうならその前に親が身体を使って間に入って止める、というのも大事ですね。叩きそうな振りかざす手をガシッと掴んだり、行為がおこる前に阻止しましょう。　そんな時は親もついカーっとなって叱りたくなってしまうところですが、頭ごなしに叱ってしまうと、子どもは『怒られて怖い』という印象ばかりが残ってしまうだけで、本当に大事な事は学べません。本当にお子さんに学んで欲しいのは、『お友達を叩かない』という事や『適切な対応方法』ですよね。お友達に手を出してしまうのは良くありませんが、手を出そうとするお子さんにも必ず理由があるはずです。
「どうしたの？」と先ずはお子さんの気持ちを聞いてあげましょう。　「〇〇ちゃんが全部独り占めして貸してくれない」「先に僕が使っていたのに〇〇君がとった！」など言ってきたら「貸して欲しかったんだね」「取られちゃったのが嫌だったんだね」など共感をし、その上で「でも叩く事はいけないよ」という事を伝え「そういう時は、貸してって言うんだよ」「そういう時は、今使っているからちょっと待っててね、と言ってみたらどうかな？」など具体的な表現方法を示してあげましょう。この時期のお子さんは、叩いたり噛んだりすることが良くない事だというのは分かっていますが、どういうやり方をすればいいのかという適切な方法を知らないだけなのです。また必要以上に大人が介入しすぎてしまうのも、子どもの自分で解決するという力を奪ってしまうことにも繋がるので気をつけたいところ。大人は具体的な方法を示していきながら、ゆくゆくは子どもが自分で考えて解決できるように導いていけるといいですね。親としてはお友達の気持ちを考えられる優しい子に育って欲しいと思うものですが、自分以外の相手にも自我があるのだと理解出来たり、相手の気持ちを想像出来るようになるのはやっと４歳になってからとも言われています。繰り返し伝えていきながら、お子さんの心が発達するのを大らかに見守ってあげたいですね。

井上エリ
子どもの心の根っこを育むcocorone主催。
アドラー心理学とモンテッソーリ教育を活かした子育て講座をオンラインで開催中。
また、自身の保育士経験も活かしながら保育士向けの研修も行っている。
アドラー勇気づけ講師、モンテッソーリ教師、8歳と1歳の女の子と男の子のママ。
インスタグラム、ブログも更新中。

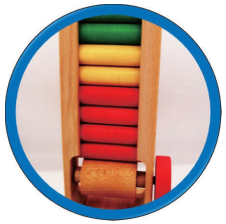
KONO TOY

KONO TOY

保育園がつくる
子育てサブスクリプション

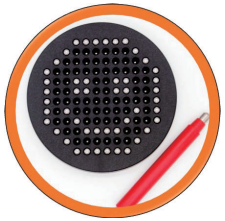
パッケージ紹介

1 ピナリオ（レシオ社）



ハンドルを回すと色棒がコトン、コトンと転がり出てきます。手前に回せば手前に、逆回転させれば後ろに転がるので、だんだんと目的やルールを持って回すようになります。が、その前の段階に、本体に色棒を上手く収めることが難題です。ハンドルを支えながら棒を入れる、という高度な操作を経験することになります。自分の手が働きかけたことから結果が出て、その構造が分かりやすいということは、子どもが知恵を積み重ねていくのにとても役立つことでしょう。。

2 マグネフ（ネフ社）



硬質プラスチックの黒いボードには小さな穴があり、中には穴から決してこぼれ出ない鉄の玉が入っています。赤いペンの先は磁石が付いているので、穴にペンを近づけると中の鉄球が引き寄せられてカチッという心地よい音と共に姿を現し、固定されます。きらりと光るその小さな玉を次から次へと浮きださせたくなります。紙に字を書く時の様にボードの上でマグネットペンを動かすと、カチカチカチっと線が描かれていきます。消したくなったら指先で鉄球を軽く押してポトリと落とすだけ。この消す作業もなんだか病みつきになる心地よさ。なんだか上手くいかなかったことがリセットされたようなスッキリ感を味わえます。おもちゃの芸術的デザインも美しいので、自分の描いた作品ももれなく引き立たせてもらえる“描くことを嫌いにさせない”最良ツールです。

3 六面体パズル4pcsアニマルナチュラル（アトリエフィッシャー社）

ステージ15の六面体パズルよりもステップUP。正立方体の六面に異なる絵が描かれているのですが、赤いてんとう虫と赤いキノコをちょっとしたヒントで見分けることが要求されます。可愛いハリネズミの丸っこい身体も完成したようでいても、よく見ると入違っていて違和感を感じるような絶妙なデザインになっています。可愛らしい蝶々も、つられて笑いそうになる笑顔のお日様も、左右対称だけどよく観察しないと完全な絵にはならない難しさを含んでいます。出来た絵を一枚の絵のように飾っておきたくなるデザイン性の高いパズルです。(木箱をうつ伏せに置いてフレームの様に使うと便利です)

4 ビルドロボット（プラントイ社）

抜いてくっつけて、簡単な組立のなかで特徴的なのは、人の表情を変えることが出来ること。表情が異なる頭部パーツにはそれぞれ異なった手触りと音が隠されていて、触覚や聴覚への刺激と同時に「感情」についての思考を引き出してくれます。ちょっとした腕の角度や足のポーズの違いでも、人の気持ちは表現できることに気づくかもしれません。腕はワイヤー、足はねじ式です。相手の気持ちを察する力は生きていくうえで必須の力ですね。
同じパッケージ内の「ドクターセット」と一緒に遊ぶと、ごっこ遊びが盛り上がりますね。

5 ドクターセット（プラントイ社）

お医者さんごっこは子ども達の生活と切っても切れない大切なごっこ遊びです。大人の仕事へのあこがれも当然ですが、幼いころから他人を思いやる気持ちや、共感する心を育みたいですね。聴診器・体温計・注射器・血圧計・医療用ハンマー(打腱器)の5つがドクターバッグに入っています。同じパッケージ内のビルドロボットやご自宅のぬいぐるみなどを相手に優しく診察してあげましょう。

絵本 カレーライス

「カレーライス、さあ、つくろう！」野菜と肉を切って、「おなべでおにくを　いためます　ジャー　ジャー　ジャー」「やさいも　いれて　いためます　ジュー　ジュー　ジュー」。テンポ良い擬音が調理している臨場感を盛り上げます。水を入れてじっくり煮込み、ルーを入れてまた煮込み……、「わあ、できた！　いいにおい！」あつあつごはんにカレーをかけて、カレーライスのできあがり。丁寧に描かれた美しい絵から、本当にカレーの匂いがしてきそう！

絵本 あっちゃんあがつくたべものあいうえお

軽快で楽しい「たべものあいうえお」。
最初に登場するのは、
「あっちゃん あがつく あいすくりーむ」。
最初のページを見た途端、思わず声が出ちゃうはず。
「おいしそう」「可愛い」「…でも、やっぱりおいしそう！」
次に「いっちゃん いがつく いちごじゃむ」。
ああ、なんておいしそうないちごジャム、塗られてパンが喜んでいるよ！
この絵本は、「あっちゃん」から始まって、「んっちゃん」まで！？
濁音、半濁音も含めて69音すべてが登場します。
ものすごい数のおいしそうで可愛らしい食べ物たちが出てきて、子どもから大人まで楽しめることば遊びの絵本です。

うた わらべうた

YouTube　このトイchで紹介しております。
QRコードからご確認ください。